

目標分解

大目標 > > 小目標

- 目標は、より小さな目標から成っている

遠近ゴールと直近ゴール

- 「人間の日常行動は、未来の望ましい出来事（遠隔ゴール）を心に描き、個々の行動の成果を評価する基準（直近ゴール）を設定してそれを実現させる可能性の高い行動を起こすことで生じている」（『情報検索のスキル』, p.24）

遠近ゴールと直近ゴール

- **Bandura, A. 1986. Self-regulation of motivation and action through internal standards and goal system. In A. P. Lawrence (Ed.), *Goal Concepts in Personality and Social Psychology* (pp. 19-85). Hillsdale, NJ: Lawrence Erlbaum Association.**

目標を分解してタスクに

- 大きな目標からより小さな目標に分解していき.....
- 個別のタスクにまで行き着いて終わり

今回の作業(1)

- グループで作った学習プロジェクトのゴール（大きな目標）を最終ゴールにして、
- より小さな目標へと分解していき、授業デザインをする

言語依存

タスク

言語に依存しない

小目標

中目標

大目標

このような分解の利点1

- 説明責任
- いちばん効率的な学習項目の導入のしかたがわかる
- 形成的評価の配置が計算できる

このような分解の利点2

- 時間の計算ができる
- 自分の癖がわかる
- すべてを明示しておけば、サルでも授業ができる (?)
- 授業プランのモジュール化ができる
- 学生の受け渡しができる

なぜ目標にこだわる

- 「～できるようにする」にこだわる理由
- タスクの分解・列挙ではいけないか？
- 目的整合性の明示、説明責任

学習プロジェクトの分解

- 自分たちの学習プロジェクトの大目標をブレイクダウンしてください。

今回の注意事項

- 形成的評価の配置と方法を明示する
- 方法＝どのような証拠を採取するか
- 成績に算入するかどうかを明示する